

地域連携

はびきのMedical Net⁺

2026

1

Vol.17



歯科口腔外科
主任部長 助臺美帆

FUTURE

歯科口腔外科 薬剤関連顎骨壊死の最近の知見

01~02

Pick Up	栄養管理室より 栄養管理室の3つの重点的な取り組み	03~04
セミナーのご案内	第25回院内産婦人科勉強会、他	05
学会報告さるーと	第66回日本肺癌学会学術集会、他	06
はびきのパーソン	看護部／集中治療科	07~08
地域医療連携NEWS	腎臓内科 腎疾患の専門病院として“手を尽くす”というポリシー	09
連携医療機関のご紹介	医療法人ともしひ会 まつもと耳鼻咽喉科さま 医療法人いづみ会 内本外科内科診療所さま	10

今後の医療を
見据えて

FUTURE

薬剤関連顎骨壊死の 最近の知見

2003年にビスホスホネート製剤投与症例で発症する骨吸収抑制薬関連顎骨壊死として報告されて以降、近年では抗悪性腫瘍薬、血管新生阻害薬、グルココルチコイド、メトトレキサートなどに関連した顎骨壊死が報告されるようになりました。日本では、日本骨粗鬆症学会や日本骨代謝学会、日本口腔外科学会他、臨床と基礎の学会で合同検討されたポジションペーパーが改定され、2023年度版からは薬剤関連顎骨壊死（Medication-Related Osteonecrosis of the Jaw: MRONJ）に変更されました。多くが骨吸収抑制薬によるMRONJであり、科学的根拠もあります。

発症メカニズム

ビスホスホネート製剤やデノスマブは、破骨細胞を抑制することで骨のリモデリングを低下させ骨の強度を高めます。リモデリングの低下で、抜歯後の治癒過程が抑制され、歯周炎などの細菌感染への反応が低下し、MRONJが発症します。抜歯や口腔細菌感染がない場合でも、顎骨の緻密化で血流不良が進行すると壊死が発症します。顎骨は、末梢部分が小

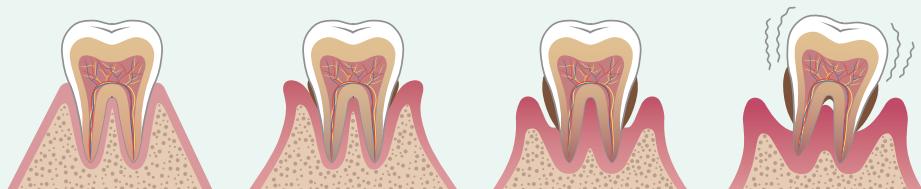
さく骨内の血流が弱い上に薄い粘膜に覆われ骨外からの血流も弱い、歯が顎骨内に植立し細菌感染が起こりやすい、抜歯など骨に侵襲的治療が行われやすい特徴があります。また累積投与量が増加するほどMRONJの発症頻度が高くなり、骨粗鬆症よりがん骨転移で圧倒的に発症頻度が高くなります。

症状

8週間以上の治癒しない骨露出、顎骨周囲の疼痛・腫脹・排膿・知覚障害といった症状がみられます。マスクをしていると全くわからないこともあります。また初期には発症に気づかないこともあります。患者様が口腔周囲の違和感を訴えられる場合には、歯科医療機関での精査をお勧めください。

治療と予防

骨髓炎の治療に準じ局所洗浄や抗菌薬投与など保存的治療が主ですが、ある程度進んだ病態では、壊死骨を手術で除去することが推奨されるようになりました。しかし外科的治療では少なからず口腔機能





が低下するため、MRONJの制御とQOLの維持、さらに骨粗鬆症か悪性腫瘍など主疾患の予後も考慮して治療法を決定します。

予防法は、虫歯や歯周炎といった口腔感染症のコントロール、つまり口腔管理です。セルフケアに加えて、歯科医院での定期口腔ケアが必要です。以前はこれらの薬剤が投与されている場合に抜歯は禁忌でしたが、近年では、抜歯が必要なほど細菌感染病巣を有する歯を放置すると、MRONJが発症することがわかりました。薬剤の体内残存期間を考慮し、適切な時期に、適切に感染源を除去（＝抜歯）することが大切です。当科では、患者様の病態に応じた治療を行うよう心掛けています。

まとめ

骨吸収抑制薬は、骨折による寝たきり予防、がん骨転移の補助療法に非常に有効です。最大限に効果を享受するため、医科では処方される際には口腔管理を患者様にお勧めいただき、薬局や看護の場でも口腔の状況に配慮いただき、歯科では口腔管理による予防と適切な治療に加え処方医との情報共有が必要です。MRONJは、予防、治療、共存、どの段階でも地域連携が必要です。当科では、MRONJの治療だけでなく、地域連携のハブとなれるよう努めてまいります。対象の患者様がおられましたら、ご紹介いただけましたら幸いに存じます。



歯科口腔外科
主任部長

助臺美帆

SUKEDAI MIHO

平成11年九州歯科大学卒、九州歯科大学、福岡大学医学部、佐賀大学医学部附属病院集中治療部、JCHO徳山中央病院、大阪大学歯学部附属病院、近畿大学病院などを経て、令和5年から現職。
日本口腔外科学会専門医、日本口腔科学会認定医

歯科口腔外科の
詳細はこちら





栄養管理室より

栄養管理室の 3つの 重点的な取り組み

1 入院医療を支える 病院給食とNST活動

当センターでは、入院患者の栄養状態を早期に把握し、栄養評価に基づく適切な介入を行っています。NST（栄養サポートチーム）回診では、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士が連携し、低栄養や治療に伴う栄養リスクに対して情報を共有しながら、チームでの栄養管理方針を検討しています。

NST回診の件数は年々増えています。依頼内容では低栄養への対応が最も多く、次いで食欲不振への支援や、経腸栄養・静脈栄養メニューに関する相談が続いている。多くの症例に介入することで、チームとしての対応力が高まり、栄養管理の質の向上が図られています。



ます。

また、患者給食においては、美味しさと栄養バランスを両立させ、『治療を“食”から支える』ことを重視しています。

今年度は給食委託会社の協力のもと、地産地消献立の日を設け、地元で生産された野菜や果物を提供しました。愛着のある地元の食材を使用した献立は、患者様から好評を得ています。治療食、食事形態調整、栄養補助食品の活用を通じて、食事からの栄養摂取をできる限り高める工夫を行っています。

金曜日回診チーム

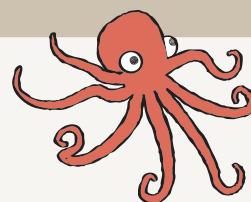


8/21に提供された
いちじくと
シャインマスカット



1

入院医療を支える 病院給食とNST活動



2

外来・入院栄養指導、 教育入院への関わり



3

地域とつながる栄養管理 ～栄養情報提供書と地域活動～

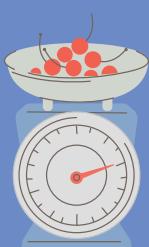
栄養管理室では、治療の一環としての栄養管理を重視し、急性期から回復期、退院後までを見据えた支援を行っています。患者さん一人ひとりの病態や生活背景に合わせて、継続可能な栄養管理を提供することを基本方針としています。

2 外来・入院栄養指導、 教育入院への関わり

外来・入院における栄養指導件数も、年々増加しています。指導内容は、糖尿病、食物アレルギー、慢性腎臓病、脂質異常症、心疾患の順に多く、最近では肥満症治療に伴う栄養指導が増加傾向にあります。

当センターでは、単なる食事制限の説明にとどまらず、患者様一人ひとりの生活背景や価値観を踏まえ、継続可能な食事療法と一緒に考えることを大切にしています。

また、教育入院や糖尿病集団教室においては、管理栄養士が食事療法の講義を担当し、「なぜ食事療法が必要なのか」「日常生活の中でどのように実践すればよいのか」を分かりやすく伝えることを心がけています。



糖尿病教室

3 地域とつながる栄養管理 ～栄養情報提供書と地域活動～

当センターでは、退院後も切れ目のない栄養管理が行えるよう、必要に応じて医療機関や介護老人保健施設、特別養護老人ホーム宛に「栄養情報提供書」を作成しています。入院中の栄養評価、食事形態、必要な栄養管理上の注意点などをまとめ、近隣医療機関・介護施設等と共有することで、退院後の栄養管理がスムーズに引き継がれるようにしています。

また地域活動としては、生活習慣病の予防や重症化予防をテーマにした府民公開講座『羽曳野からだ塾』での講義、栄養教諭や患者会等を対象とした『食物アレルギー患者における栄養管理』に関する研修にも取り組んでいます。医療機関内にとどまらず、地域全体で患者様を支える栄養管理を目指しています。



食物アレルギー研修会



ぜひご参加ください！

【主催・共催】大阪はびきの医療センター

参加者
無料

2月以降のセミナーのご案内

第19回 はびきやま産婦人科セミナー 第25回 院内産婦人科勉強会

2/5
(木)

- 【日 時】2026年2月5日(木) 17:45～19:00
 【会 場】大阪はびきの医療センター3階 講堂
 【対 象 者】医師・看護師
 【主 催】大阪はびきの医療センター産婦人科

<プログラム>

- ・一般演題
「子宮体部原発の疣状がん (verrucous carcinoma) の1例」
大阪はびきの医療センター産婦人科医員／車野晃大
- ・ビデオクリニック
「当院でのロボット支援下仙骨腔固定術」
大阪はびきの医療センター産婦人科副部長／長安実加
- ・コメントーター
近畿大学医学部産科婦人科学教室講師／小谷泰史先生
かわにしレディースクリニック院長／川西勝先生
船内クリニック副院長／船内祐樹先生
- ・特別講演
座長：平松産婦人科クリニック院長／平松恵三先生
「骨盤臓器脱に対する内視鏡下仙骨腔固定術の導入と発展」
近畿大学医学部産科婦人科学教室講師／小谷泰史先生

はびきのDチャンネル episode27

2/26
(木)

- 【日 時】2026年2月26日(木) 14:00～15:00
 【会 場】Web開催 (ZOOM)
 【対 象 者】医療関係者
 【申込方法】下記QRコードより事前登録ページへアクセスしていただき、申込フォームに必要事項をご入力ください。

<プログラム>

当センター皮膚科にご紹介いただいた症例の情報共有と地域医療の啓発活動として、Webによる症例報告会を2か月に1回実施しています。この活動を通して、皮膚疾患に遭遇することの多いプライマリケアの先生方にもご協力いただき、地域の皮膚科診療を支えていきたいと考えています。

大阪はびきの医療センター皮膚科地域連携カンファレンス「プライマリケアにおける皮膚科診療のTips」と題し、センター皮膚科医師がそれぞれ症例の報告を行います。

<ナビゲーター>

大阪はびきの医療センター
皮膚科主任部長／片岡葉子



第65回 羽曳野臨床懇話会

2/12
(木)

- 【日 時】2026年2月12日(木) 14:00～15:50
 【会 場】大阪はびきの医療センター3階 講堂
 【対 象 者】医療関係者
 【申込方法】調整中(時期が近づき次第告知予定)
 【共 催】羽曳野臨床懇談会・羽曳野市薬剤師会
大阪府医師会生涯教育研修1.5単位取得予定(申請中)

<プログラム>

- ・開会の辞：羽曳野市医師会会長／加藤治人先生
- ・司会・座長：羽曳野市医師会理事／額田勝先生
- ・講演会
「浪速区 医療DX」
講師：医療法人泰弘会えびす診療所
院長／久保田泰弘先生
- ・診療科紹介
「病理診断科の取り組みと地域とのつながりについて」
(ミニCPCも行います)
講師：大阪はびきの医療センター
病理診断科主任部長／上田佳世
- ・閉会の辞
大阪はびきの医療センター院長／山口誓司



栄養士のための大坂食物アレルギー研究会

2/28
(土)

事前
申込

- 【日 時】2026年2月28日(土) 10:00～12:00
 【会 場】大阪はびきの医療センター3階 講堂
 【対 象 者】栄養士(学校、行政、病院)
 【定 員】80名(予約制、先着順)

<プログラム>

- ・講演会
「子どものアレルギー～基礎から～」
大阪はびきの医療センター小児科医長／上野瑠美
- ・質疑応答
指導助言(予定)
近畿大学医学部小児科学教室医学部講師／竹村豊先生
大阪はびきの医療センター小児科主任部長／亀田誠
大阪はびきの医療センター小児科医長／上野瑠美

<共催>公益財団法人日本アレルギー協会関西支部

<協力>特定非営利活動法人日本アトピー協会



学術報告さるーと



第66回日本肺癌学会学術集会で当センターから5演題発表しました。

2025年11月6日（木）～8（土）、東京国際フォーラムにて、日本肺癌学会学術集会が行われました。

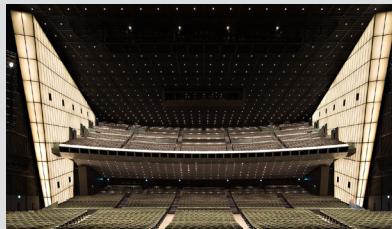
当センターは、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）について積極的に取り組んでおり、患者様やご家族が大切にしていることや望むこと、どのような医療やケアを受けたいかを共に考え、患者さんやご家族がその人らしく生きることができることを大切にしています。

今回の学会で得られたご意見やつながりを、今後の診療や看護に生かすとともに、地域の医療機関の皆さんとも情報共有・連携を深めながら、より良い医療の提供につなげていきたいと考えています。



2025KAPARD Autumn Conferenceに日韓交流講演の演者として参加しました。

韓国に行ってきました！2025年10月に開催された小児アレルギー学会学術集会に韓国の先生をお招きしたのに引き続き、2025年11月7日に韓国小児アレルギー呼吸器疾患学会（Korean Academy of Allergy and Respiratory Disease, KAPARD）の学術集会（2025 KAPARD Autumn Conference）に、日韓交流講演の演者として参加しました（小児科：高岡有理）。韓国と日本の小児アレルギー学会は以前から心温まる交流を育んでいます。



第66回日本肺癌学会学術集会プログラム

多発肺癌に対し右上下葉切除を施行し 中葉を温存した2例	呼吸器外科／北原直人副部長
当院における85歳以上の超高齢者肺癌に対する 手術成績	呼吸器外科／谷口聖治医長
肺癌に併発した肺膿腫のコントロールに 外科治療を要した2例	呼吸器外科／渡洋和医員
がん内科病棟におけるACPカンファレンスの実態調査	副看護師長／岩田香
A病棟のACPカンファレンス活性化の取り組み	看護師／中原天海

アトピー・アレルギーセンター主催
気管支喘息講演会が開催しました。



2025年12月20日（土）、外部医療機関から講師をお招きし、気管支喘息に関する講演会を開催いたしました。

当講演会にご参加いただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。

演題①「学童期以降の喘息の治療・管理・鑑別のポイント
～生物学的製剤を始める前に～」
福岡市立こども病院こどもアレルギーセンター長／
アレルギー・呼吸器科科長／手塚純一郎先生

演題②「病態評価に基づく重症喘息管理
～医療連携とバイオ早期導入の実践～」
南奈良総合医療センター呼吸器内科部長／甲斐吉郎先生

当センターでは、研究、学会発表、論文報告を積極的に行っており、今後とも最新の知見を発信し続けてます。



当センターのスタッフを紹介します! はびきのPERSON

Story 1

アウトドアライフ



看護部4Cさくら病棟 看護師
西山歌乃

左から:①夜明け前の富士山山頂 ②穂高連峰と星空を見ながらのテント泊 ③涸沢にミャクミヤクと一緒に

初めまして。4Cさくら看護師の西山と申します。学生の頃からやりたいと思っていた登山を、社会人になってようやく始めました。そのつながりで、サイクリングやシュノーケリングにも手を伸ばし、気づけば4年が経ちました。

登山を続けるうちに雪景色にも興味が湧き、今では四季折々の景色を楽しんでいます。この前行った明神平では親子のニホンカモシカと出会いました。ふとした出会いも面白いです。去年の8月には、念願だった涸沢カールでテント泊をしてきました。万博で鍛えた(?)脚力を頼りに、衣食住を背負って登りましたが、大自然の迫力に圧倒されるばかりでした。観たい景色はまだまだ尽きません。

そんな中、最近読んだ『限りある時間の使い方』という本には「80歳まで生きるとしても、人生は4,000週間しかない。必要なのは効率を上げることではなく、すべてをこなそうという誘惑に打ち勝つことだ。」と書いてあり、考えさせられるものがありました。やりたいことを詰め込みがちですが、あえてやらないことを選ぶ勇気も大事だと感じるこの頃です。



富士ヒルに挑んだ夏



綿向山の稜線で



大自然に囲まれて

N!...

当センターには、個性豊かなスタッフが
日々の業務の中でいきいきと取り組んでいます。
職員の雰囲気を身近に
感じていただければと思います。



Story 2

お絵描き・人形・ベース

集中治療科 臨床工学技士
大和愛華

今 年で入職3年目になる臨床工学技士の大和愛華です。

元々絵を描くことが趣味で、過去にも美術部やイラスト部に入っていました。そして、人形と出かけて写真を撮る趣味があったのですが、今年から新しい趣味としてベースを買いました！正直楽器を弾くことは一人では続かないと思っていたので、同時期にギターを始めたいと言ってくれた友達には感謝しかありません。

そこから、12月に楽器を買うという予定が前倒しの前倒しで早急にベースを購入してしまいました。毎日家で

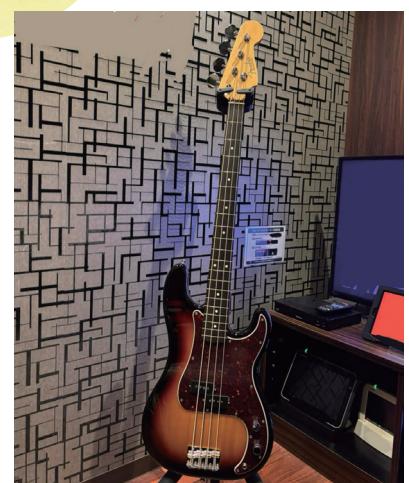
絵を描くかベースを練習するかの二択で忙しくも楽しい日々を過ごしています。まだ始めたばかりで全てのことが難しいですが、練習が楽しくて仕方がありません。左手の薬指と小指、右手の人差し指と中指の筋肉を必死に育てる毎日です。



人形のイベントに参加するために
東京へ行った時



ベースを買いに行って
試奏している時



買ったベース



地域医療連携NEWS

腎疾患の専門病院として “手を尽くす”というポリシー

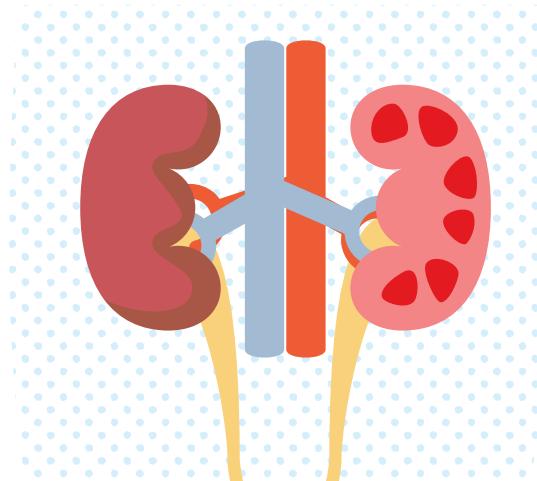
2023年4月に、大阪はびきの医療センター腎臓内科を開設いたしました。早期の検尿異常から急速進行性糸球体腎炎まで、可能なかぎり腎生検での診断を行い、患者様ごとに最適な治療を積極的に行ってまいりました。ひとりひとりの患者様の病態に“手を尽くす”医療の実践を行い、地域の先生方に協力いただき、はびきの医療センターの腎臓内科は、苗木から成木へ成長していっているところです。

一方で、“手を尽くして”も、非常に残念ながら透析が必要になる患者様もいらっしゃいます。その場合、腎代替療法への移行をサポートしております。血液透析、腹膜透析、腎移植の3つの治療方法について十分な説明を行い、可能な限り時間をかけて選択していただきます。

そのなかでも、腹膜透析は、『おうち透析』という名称でも最近知られるようになりました。当センターでも腹膜透析を提供しております。お腹（腹腔）にカテーテルというチューブを入れておき、1日に数回の透析液交換を自分で行うという治療方法です。腹膜透析液の交換にある程度（1回あたり数十分程度）の時間はかかりますが、

比較的自由度は高く、問題がなければ通院は1か月に1回で、患者様のQOLは保たれます。血液透析では週3回、1回あたり4時間と、治療に時間がかかり、患者様は貴重な時間を割かなくていいことを考えると、魅力的な治療方法です。患者様自身での腹膜透析の治療方法の勉強や手技の習得が必要ですが、本格的な血液透析の開始を先延ばしにすることが可能です。

当科では、すべてのステージの腎疾患診療に最適な治療を心がけております。今後とも病診連携につきまして、何卒よろしくお願い申し上げます。



腎臓内科
主任部長

飯尾麗

IIO REI

〈経歴〉

平成18年大阪大学卒。大阪大学医学部附属病院、JCHO 大阪病院、NTT 西日本大阪病院、大阪急性期・総合医療センター等の勤務を経て、令和5年より現職。

〈所属学会・資格など〉

日本内科学会(認定医・総合内科専門医・指導医)、日本腎臓学会(専門医・指導医)、日本透析医学会(専門医・指導医)、腎代替療法専門指導士、大阪府難病指定医、医学博士、身体障害者福祉法第15条指定医師

腎臓内科の
詳細はこちラ





連携医療機関（登録医）のご紹介

医療法人ともしび会 まつもと耳鼻咽喉科

院長／松本あゆみ 先生

当院は、皆様に安心して来院いただけるよう、アフターコロナとなった現在も感染対策を継続し、またWeb順番予約を導入することで少しでも待ち時間を短縮するように努めています。診療面では、患者さんの訴えを傾聴し気持ちに寄り添うよう心がけております。2025年から非常勤医師による診療も始まり、週4コマのみですが二診体制となることでより多くの患者さんの診療ができるようになりました。院長も非常勤医師も全員が女性医師で、細やかな視点で診療できるのも特徴だと思います。地域の皆様に愛されるクリニックを目指しております。末永くよろしくお願ひ申し上げます。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00～12:00	○	○	休診	○	○	○	休診
15:30～18:30	○	○	休診	○	○	休診	休診

〒582-0025 大阪府柏原市国分西1-1-17 幸喜ビル202（近鉄大阪線・河内国分駅西口目の前）

072-975-3387 URL <https://matsu-jibika.com>



医療法人いづみ会 内本外科内科診療所

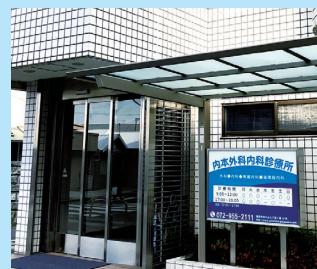
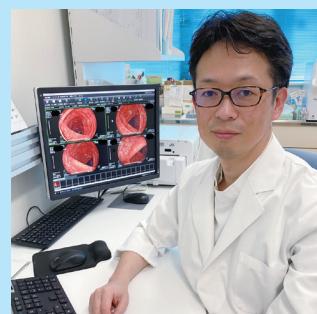
院長／内本和晃 先生

当診療所は父と叔父が1983年に開院し、当初より外科・内科と幅広い疾患に対応し、2000年からは日曜診療も行ってきました。私は外科医として消化器癌の手術を中心に行なってきました。2011年から当診療所の後を継ぎ、今までに得た知識、技術を生かし、外科・内科はもちろん、上部・下部内視鏡検査、腹部超音波検査なども行っています。大阪はびきの医療センターとも連携しながら診療、治療を行っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00	○	○	○	休診	○	○	○
17:00～20:00	○	○	○	休診	○	休診	休診

〒583-0033 大阪府藤井寺市小山5-1-10

072-955-2111 URL www.uchimoto-gekanaika.com



登録医へのご登録のお願い

当センターは地域医療支援病院として、地域の医療機関と当センターが協力のもと相互の機能を有効に活用し、医療連携を深め広げることにより、地域全体として患者さんにとってより質の高い医療を提供していくことを目的に登録医制度を実施しています。
ぜひ登録をお願いいたします。





地域医療連携室より

- できるだけ事前のご予約をお願いします。**
- 紹介状があっても予約がない場合は、待ち時間が長くなることや当日の受診ができない場合もあります。
- 呼吸器内科、肺腫瘍内科、アレルギー・リウマチ内科（松野医師のみ）、消化器内科は、完全予約制となっております。
必ず地域医療連携室を通してご予約をお取りくださいますようお願いいたします。
- 当日の緊急受診**が必要な患者様におきましては、できる限りお受け入れできるよう調整いたしますので、**地域医療連携室にご連絡**いただけますようお願いいたします。
- オンライン予約システム（C@RNA Connect）**をご利用ください。
(事前に申し込みが必要です)。

詳しくはホームページまたは地域医療連携室にお問い合わせください。

地域医療支援病院として紹介・逆紹介をさらに推進してまいります。
私達は、最新の医療水準で、最適な医療サービスを、
思いやりの心をこめて提供します。



地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪はびきの医療センター

〒583-8588 大阪府羽曳野市はびきの3-7-1

072-957-2121 (代表)

<院内診療科のご案内>（令和7年12月現在）

呼吸器内科、肺腫瘍内科、感染症内科、アレルギー・リウマチ内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、乳腺外科、産婦人科、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、泌尿器科、整形外科、眼科、歯科口腔外科、麻酔科（高内裕司）、集中治療科、救急診療科、画像診断科、放射線治療科、臨床検査科、リハビリテーション科、緩和ケア科、外来化学療法科、病理診断科

センター公式SNS

